

しま 地域だより 10月号

サザンクリーンセンター推進協議会



島尻歴史散歩

—グスクと宿道—

～神降れはじめのぐすく～

知念城

知念杜ぐすく 神降れはじめのぐすく
あまみきよが
宣立ではじめのぐすく
大国杜ぐすく

知念杜グスク 神が降り立ったグスク
祖神アマミキヨが
はじめて祈ったグスク
由緒あるグスク



「おもろさうし」に
語られる知念城一帯は、
琉球の国建て神話と
深く結びついた聖な
る地域である。12世紀
頃のグスク時代に建
立されたものと推量
される。
知念城は、琉球王朝
時代の重要な儀式で
あった「東御廻い」の
順路の1つに入って
おり、王国の神聖な靈
場のひとつとして人々
の尊崇の対象であった。
「東御廻い」は、国王
が民の豊饒と安寧を
祈願するため沖繩人
の先祖アマミキヨ族
が渡来した地といわ
れる知念・主城方面の

霊地を拝礼する儀式。
首里城の園比屋武御嶽
を発し、場天御嶽、
斎場御嶽、知念城な
どの聖地を巡拝した。
知念城は、グスク時
代に築かれた古城と
尚真王時代に築城さ
れた新城のふたつに
区分される。新城は、
内間金丸(後の尚円王)
がノロに生ませた内
間大親が築城したと
いわれており、内間大
親は後に知念按司と
なつて権勢を誇った。
城内の神殿は、礼拝
所として使われたのち、
知念番所として使用
されていたが、集落が
丘陵の下に移転した
ことに伴い廃止され
たという。
樹齢200年余の
アカギなどの古木に
囲まれた城郭、アーチ
型の美しい城門跡や
柔らかな曲線状の石
垣が、いにしえのたた
ずまいを見せている。

サザン協短期・長期計画三組合の取り組み

三清掃組合事務局長に聞く

8月11日、6市町長会議でサザン協の短期・長期の基本方針が確認された。短期計画では既存施設の最大活用を図り、自区内三施設(糸豊、島尻、東部の各清掃組合)でごみの処理と焼却灰等の最終処理を完結させること。長期計画においては、三施設の一元化(平成33年稼働を目指す)を進める基本方針の確認である。

10月に開かれるサザン協理事会を前に、三施設の事務局長に広域事業として現場の実情を踏まえた課題、取り組み等を中心に聞いた。

東部清掃施設組合

(當間嗣儀事務局長)

ごみ処理施設の現状と課題

現在は、倉浜衛生施設組合のごみを当組合施設で焼却し、当組合施設から出る焼却残渣を倉浜衛生施設組合に処理している。

課題は最終処分場の設置である。事務局としては、旧南産協



當間嗣儀事務局長(東部清掃施設組合にて)

時代から一貫して自前の最終処分場を設置していただきたいと関係先に要望してきている。ごみはある程度減量できても、ゼロにすることはできない。自らの地域から排出されたごみは、自らの地域で処理するのが原則であることを理解していただきたい。

サザン協第1部会の提案の中には灰溶融施設の建設を含んでいる案もあるが、仮に灰溶融を行っても溶融飛灰は必ず出る。これを県外に持ち出す(山元還元)にしる、一定量(船舶の運航日程も関係する)に達するまで、どこかに保管

する必要がある。

また、何らかの災害で大量のごみが発生した場合の保管場所も確保しておく必要がある。規模の大小に関らず、一時的な保管庫(最終処分場)は必要である。

し尿処理施設についての取り組みは

し尿処理施設についても建て替えを含めて、早期に議論を急がなくてはならない。

現在の西原処理場は、昭和49年2月稼働で、34年が経過している。これまで2回にわたり基幹整備して対応してきたが、2回目の平成7年度の基幹整備から13年も経過していることもあり、維持補修費等の経費がかさむことで、構成市町の財政に掛かる負担も大きい。



東部清掃施設組合西原処理場

現在、南部広域行政組合のコーディネートにより、三清掃施設組合と南風原町で事務研究会の立ち上げに向けた事務局間の話し合いが行われている。

今後、各清掃施設組合や南風原町の課題等を整理し、相互に広域連携を図りながら議論を進めてゆけば、早期に解決の糸口が見えてくると思われる。

島尻消防清掃組合

(仲地武信事務局長)



仲地武信事務局長(島尻消防清掃組合にて)

施設の現状と課題

島尻消防清掃組合は、昭和55年の稼働以来28年が経過している。平成12年と13年にダイオキシン対策の基幹改良を行ってから7年近くが経過している。通常、7〜10年が基幹改良のサイクルであり、平成22〜23年頃で再び改良の時期をむかえる。平成24年以降の対応については、施設の基幹改良か他の施設に処理を依頼するかの判断を、管理者や議会と調整して慎重

に選択しなければならぬ。当然、構成市町住民の負担にならないように財政面も考慮することが重要だ。

何よりも大きな課題は最終処分場の確保である。サザン協は当初の目的である最終処分場建設とかけ離れ、広域化が先走っている感がある。平成33年度の一元化施設が稼働すると、溶融飛灰を本土に処理委託するとあるが、仮にトラブルが生じた場合はどうするのか。与那



島尻消防清掃組合の清澄苑

国を襲った先日の台風でもあったが、処分場は災害時における緊急の使用法があることも知って欲しい。サザン協事務局が先頭に立ち調査研究を行うことも必要だ。

し尿処理施設についての取り組みは

三施設に既存するし尿の広域化についての議論は必要である。糸豊の施設は当分の間、何の支障もなく稼働できるで

糸満市・豊見城市清掃施設組合

(大野正廣事務局長)

倉浜衛生施設組合への預託期限が切れる平成23年度に向けての取り組みは

焼却残渣について、独自の処理施設を持たず、焼却灰の処理は倉浜衛生施設組合にお世話になっている。平成23年4月以



大野正廣事務局長(糸豊環境美化センターにて)

あろう。東部・南風原・島尻の三者では荷が重いと考える。島尻の現場の考えとしては、地元の合意形成が得られ、法的な部分などクリアすべき課題が解決すれば、短期方針として基幹改良を考えている。糸豊の基幹改良時期を見越して、議論を重ねていく中で、南部全体の広域化としての方向性が見えてくる。いずれにしても十分な検討が必要だ。

降は預けた残渣の引き取りを行って自前で処理をする必要があり、独自の中間処理施設(ごみをリサイクル可能な溶融スラグに変える)の設置が急がれる。

具体的には、循環型社会形成の実現に向け、交付金制度を活用し、工事中に必要な交付金を受けられるための各種策定業務を行っている。年度内に環境大臣への循環型社会形成推進地域計画申請の承認を行い、平成23年4月の稼働に向けて取り組んでいるところである。

平成33年度にごみ処理施設が一元化される。それに向けた取り組みは現時点における特別な取り組みは行っていない。

一般廃棄物処理は長期的取り組みが求められていると考える。サザン協の短期及び長期計画における基本方針と、各部会のプログラムをお互いしっかり確認しつつ、組織的に行動する必要性を認識している。

平成33年度稼働を目指す一元化施設は、建設費用、運営費、維持管理費などに莫大なコストがかかる。住民負担も大きく慎重な対応が求められる。まずは、住民の理解が何よりも重要であり、時間を掛けてじっくりと説明を行い誰もが納得がいくような形で合意形成を得る努力をして欲しい。



糸満市・豊見城市清掃施設組合

サザン協短期・長期計画について

第1部会(施設建設選定部会)部会長

十分な議論と財政計画が肝要



照屋義実氏

基幹改良を終えたばかりの東部、まもなく

施設の基幹改良時期を迎えようとする島尻等の問題を包括的に条件整備していくと、糸豊も含めた一元化施設の平成33年稼働は妥当だろうと考える。

ただ、13年後の情勢に現時点で対応することは困難であるが、これだけの期間を猶予されたことは住民にもメリットがある。その間、十分な時間を活用し、財政の立て直しを図って欲しい。ごみの収集及び処理を行う行政、処理施設を受け入れる住民にとって微塵の不安もない、新技術に期待したい。

「既成概念にとらわれない」

処理方式・候補地の選定を担っているが、今日の科学技術の発達を見た場合、13年後における廃棄物処理の進展はいかばかりか。その点はすぐれて専門

的な分野であり、我々の予測範疇を超えている。建設時において最善の方式が示されていることを期待する。

個人的な意見だが、13年の猶予を与えてもらった、処理方式に関しては溶融ありきではないと考える。将来を見据え、既成概念にとらわれない幅広い議論が望まれる。

「減量化と焼却燃料確保の問題」

那覇・南風原クリーンセンターが全国でも有数のごみ減量化を成し遂げた。反面、それによる弊害の側面も現れた。具体的には、細かい分別収集を行いながらも、燃やしてしまうことにより発電に必要なカロリーを得ている。一見すると矛盾しているようだが、その辺りの課題も解決していかなければならない。

去る洞爺湖サミットでも浮上した地球温暖化問題への答えとなるようなシステムの出現を期待したい。

ごみ問題
東部・島尻・糸豊の事務担当有會議開催

9月3日、午前11時からサザン協を構成する東部・島尻・糸豊の三清掃組合の事務局による話し合いが行われた。これは8月11日に開催されたサザン協市町長会議で確認された、短期・長期計画の推進における基本方針を受け開催されたものである。

会議ではまず、事務局から四組合の組織統合議論に至る経緯と糸満市加入に伴う規約変更の部分について説明があり、組織の広域化にあたっては、さまざまな問題を洗い出す必要がある、東部・島尻・糸豊ともそれぞれの整備スケジュールに向けた調整が必要であると、情報の共有、お互いの認識の一致が重要だとした。



南部総合福祉センターにて

し尿問題
三組合と南風原町担当課 意見交換

9月3日、午前10時、東部清掃施設組合、島尻消防清掃組合、糸満市・豊見城市清掃施設組合の事務担当者として、し尿処理を島尻に委託している南風原町の担当者が、し尿処理の現状と課題について意見交換を行った。

これは、8月11日、南部広域行政組合城間俊安管理者(南風原町長)の呼びかけで、し尿処理施設を管理する三組合の正副管理者会議での協議結果を受けての話し合いである。

サザン協の中で協議されているごみ処理施設の一元化(平成33年度稼働)と同様、それぞれの組合で管理する、し尿処理についても南部広域行政組合での広域事業化の方向性を探るものである。

今後の話し合いとしては、既存施設の現状と課題を整理することが大事であるとし、三組合の施設の視察、課題の総括を行うこととなる。

平成20年度内で広域における処理方式、建設費、維持管理費などをまとめ、再度、三施設組合と広域行政組合の四組合正副管理者会議に報告、広域での事業化への市町担当者の研究会発足を図っていく。

地域の偉人
自由民権運動の父
義人 謝花 昇



八重瀬町(旧東風平町)が誇る偉大な人物謝花昇は、明治中期の沖繩の新しいうねりの中、沖繩の為に尽くした人で、自由民権運動の父、沖繩解放の先駆者義人謝花昇として町民の最も尊敬する人物である。
第5回目は「昇の高等弁務官②」について紹介。

「昇の高等弁務官②」

そして、謝花は公然と各地で開墾反対の演説を開催し、演説会の人気はものすごく、「官地民木論」を唱える知事を批判し、「民地民木論」を唱え、情熱的な演説に聴衆は引き付けられ魅せられて行った。そして、彼の生まれた東風平の地名と彼の姓とをむすびつけて、

浦崎榮徳氏(町史編纂委員)

一九四七年生まれ、八重瀬町世名城出身。〇八年に八重瀬町役場を退職し、現在、同町史誌編纂に携わる。在職中は、旧東風平町で同町出身の謝花昇研究に関わる傍ら、町立歴史資料館の建設に奔走。旧具志頭と合併する〇八年まで館長を務める。

「東風平謝花」と県民が彼を呼ぶ代名詞となり、多くの県民から慕われていった。

対して奈良原知事は、この開墾に謝花が反対したということは、謝花を追い出す絶好の口実となり、首里の有力者や特権階級等は謝花によって開墾願いが却下されたこともあり、謝花に対し不満を持っている事をよいことに、謝花の追い出しを図り、遂に開墾主任を解任してしまうのである。

開墾主任を解任された謝花は、その後、砂糖審査委員長や農工銀行設立準備委員となり、明治三十一年三月に内務部第五課長兼農事試験場場に命じられ、糖業振興や蚕業振興に努める。また、農工銀行設立については、農業の近代化のため、最

も必要な金融機関としてその必要性を力説して奔走し、謝花は常務取締役となる。そして、一年後に真の県民のための銀行として運用すべく、農民のために本島三郡から重役を入れるべきとして、重役問題が持ち上がり、役員改選を実施することとなった。それを期に奈良原や特権階級は謝花を追放するため、官命と称して株主を威嚇したり、あるいは買収行為に出たりして、干渉・買収等の影響で謝花側の候補者は枕をならべて敗北した。

このように、農民のために農工銀行の改革を目指した謝花は、不当な役員選挙で当選無効の訴訟をおこし裁判沙汰となり、奈良原の圧力により、重役の座から追放されたのである。(続)



奈良原繁(ならはらしげる)1834~1918(大正7)年。第8代沖繩県知事